

薄井 聖さん

北原 豪さん

宮村 厚至さん

小泊 大貴さん

宇都宮 輝さん

笹島 竜成さん



育休を経験した男性同士で語ろう！

座談会レポート

—今日は育休を取得した6名の男性にお集まりいただきました。金沢市役所、民間企業の方、長期取得、1か月取得、お子さんが1人目、双子、2人目3人目の方とさまざまです。では普段どんなお仕事をされているのかと最近のお子さんの様子を含めながら自己紹介をお願いします。

宇都宮 北國銀行に勤務しています。今は石川県庁に出向中で、出向して半年ほど経ちました。子どもは10か月で、つかまり立ちを始めたところです。ハイハイを全然しなかったので「なんでだろう」と思っていたんですが、おもちゃを両手に持つのが好きみたいで、だから両手がふさがるハイハイを飛ばしたのかなと推測しているところです。

笹島 金沢市道路管理課の笹島です。舗装工事の管理や、市民の方からの「側溝を直してほしい」などの要望に応える仕事です。子どもは双子で2歳半。言葉をだいぶ覚えて、意思の疎通ができるようになりました。一番かわいい時期かもしれません。今までは誰が寝かしつけてもよかったのに、最近は「ママじゃないとイヤ。パパバイバイ」と言われ、少し寂しいです。

小泊 金沢市消防局の小泊です。育休前は消防の現場で24時間勤務をしていましたが、4月からは日勤の職員として働いています。仕事内容は火災予防の広報や建物の検査など。子どもは昨日1歳の誕生日を迎えました。離乳食でぐちゃぐちゃになる毎日です。やっとふらふら立ち始めたので目が離せません。

薄井 土木設計を扱う日本海コンサルタントで営業している薄井です。もともと県外の出身で、大学進学を機に金沢に来ました。子どもは男の子で現在8か月。宇都宮さんのお子さんと同じで、ハイハイが苦手でまったくハイハイをしなかったんですが、おととい初めてハイハイできるようになり、昨日はハイハイレースに出場してきました。5人中3位です。

宮村 金沢市商工業振興課の宮村です。中小企業の支援が主な業務で、金沢かがやきブランドの認定やPRなどをおこなっています。市役所に入って18年目で現在40歳。子どもは9か月です。ほふく前進が得意で、すごい速さで移動することに驚いています。自分は遊び担当として見られていて、もっと一緒に遊びたいんですが、仕事が忙しくて早く帰れないのが目下の悩みです。

北原 計画情報研究所の北原です。日本海コンサルタントさんと同業ですが、うちはどちらかというとブランディングがメインです。子どもは現在5か月。寝返りするようになったと思ったら、ズリバイを始めました。もうすぐハイハイしそうなんです。力が足りないみたいで、顔から突っ込んでいく様子を心配しながら見ているところです。

育休を言い出すハードルの高さ

—みなさん0歳～2歳のお子さんをお持ちで、子育て真っ最中ですね。まず育休を取った背景からお聞きしていいですか？

小泊 育休を取ったときは消防局の現場勤務でした。最近になってようやく女性職員が採用されるようになりましたが、約500名の職員の中でも女性は数名程度。そんな男社会なので「男が育休？」という雰囲気がありました。まず上の人々の理解を得るのが大変。人事と相談して、本庁と相談して、妻と相談して、たくさんの人に心の中で頭を下げて取ることができた育休です。でも自分が取った後、どんどん男性取得者が増えたので、さきがけとして動けたかなと。



笹島 僕は自分で勝手に気を使ってしまい、なかなか上司に切り出せませんでした。妻は切迫早産で早い時期から入院していて、入院中に双子の1人に肺に疾患があることが分かったんです。「生まれてすぐに自発呼吸ができる可能性は半々」と医師から告げられ、

問題なく生まれてくるのか不安で、育休の希望を伝えられたのは出産前後ギリギリの時期です。上司の反応は、すんなりと「いいよ、どうぞ」という感じでした。今は肺の手術もして2人も元気です。周りに育休を取った男性職員がいるかどうかは自分が当事者になって初めて考えましたね。

宇都宮 僕は30日取得して「長く取ったな」と思っていたんですが、今ここに来て、みんなもっと取っていることが分かり、ちょっと恥ずかしい気持ちになっています。少なくとも誇れる気はしません。社内ではすでに取りやすい雰囲気があったんですが、組織の実績づくりのための30日と言えるかもしれない。でもだからといって「じゃあ6か月取ります」と言えるかという、それもまた難しい。

やっぱりシビアなお金の問題

—長く取るのが難しいというのは具体的にどんな点でしょう？

宇都宮 現場が日々変化していく中で、長期間仕事から離れることへの恐怖が若干ありますね。

薄井 自分も30日の育休でしたが、妻も30日でいいと言っていて、理由はお金です。2人一緒に育休を取って、2人揃って収入が減るとなると、長い期間は取れないなと。

宇都宮 笹島さんは長めの育休ですね。インタビュー記事の中で給付金に税金や保険料はかからないから、と話されていて、確かにその通りではあるな、と。

笹島 給付金は前年の残業も含めた分の3分の2の額ですからね。僕の場合は育休の前年度の残業が多かったので、結構もらっているなという気がしました。

(※給付金：育休期間180日までは67%、180日以降は50%)

宇都宮 育休に入るときに「給付金額はこのくらい」と事前に分かると助かりますよね。もらってみたいと分からないので。

北原 さらに給付金がもらえるまでのタイムラグもあります。

薄井 ぶっちゃけ言うとボーナスにも影響があります。

宮村 で、退職金にも影響するんですよ。

小泊 育休取るとき、めっちゃお金の勉強をしました。取った場合と取らなかった場合でどれくらい違うのか、今後を見据えていろいろ勉強しました。

宮村 まあ、みなさん若いから(笑)。私はもう40なので小さなことにはこだわらない。

(一同 笑い)

住む場所どうする？実家の存在は？

宮村 だって調べたところで何も変わらないですから。多少取り分が減っても蓄えて何とかするしかない。私は実家が近いので、もし家がなくなっても実家に行けばいいやと思っていました。夫婦だけでなんとかしなければという気持ちはなかったですね。

宇都宮 僕は子どもができたときに、一番近い小学校がなくなるというのを知ってショックでした。保育園や幼稚園はあるのに、小学校がなくなるのかと。

小泊 僕も家を建てるときに子どもが高校まで通える場所かどうかをずいぶん考えました。小中高が近いと親の負担が減りますから。

北原 今のところ賃貸ですが、自身も生まれ育ったまちなかで子育てしたい妻と、自然豊かな場所で育てたい僕との間で意見が割れています。ただ、まちなかから離れると、妻は親の手伝いを得られなくなるので嫌だって言うんですよ。

宮村 現実的な話、奥さんの実家が近いのがベストだと思いますよ。

小泊 親の存在はありがたいですね。核家族だといろいろと大変なので。

テレワークできる？できない？

宇都宮 みなさん、仕事はテレワークとかされていますか？

小泊 全然進んでないので、ぜひ専門の宇都宮さん助けてください（笑）。少しずつ動いてはいるけれど、まだまだ職場は紙ばかり。本庁ではどうですか？

宮村 本庁でテレワークメインはほとんどないです。コロナ明けの揺り戻しもあって、あくまでも集まれない場合にテレワークという位置づけ。テレワークだと仕事は進むんですよ。窓口対応も電話対応もせず自分の仕事だけに集中できるから。でもそうすると出勤する人にだけ負担が集中するので、なかなか難しい。

— 薄井さんや北原さんの職場はテレワークが進んでいるイメージありますが。

薄井 社内のテレワークはわりと進んでいます。部署ごとに数台のテレワーク用 PC がありますし、技術系の人たちに内線かけると「今日はテレワークです」という声も普通に聞きます。

北原 うちもテレワークしてますね。選べるので、気分ですたり出なかったり。個人の好みで分かれています。重いソフトを扱う仕事は出勤してこないが無理ですが。

— じゃあ子育てとも両立しやすい？

北原 しやすいと思います。子どもが体調不良になったときには、家に帰って、子どもの世話をし、寝かしつけた後で仕事をする、というやり方も可能ですね。

笹島 自分のところは多忙な課という点もあるし、自然災害、大雨、交通事故の処理など、人手が必要で、現地に行かなくちゃいけない仕事なので難しいです。

小泊 パソコンでの業務じゃなくて現地に行く仕事だと難しいですね。建設業が現場に行かなきゃ仕事にならないのと一緒です。

仕事はそれなりに回るもの

— さきほど宇都宮さんが、育休で仕事から長く離れることへの不安について言及されていましたが、みなさん不安はありましたか？

薄井 僕はありました。お皿を洗いながら、なんか寂しいな…電話来ないな…って。

(一同 笑い)

北原 いなきゃいないで何とかなるんですけどね。

薄井 やっぱり最初の 1、2 週間は気持ち会社が会社に行ってたね。後半になったらあまり考えなくなったけれど。

小泊 その気持ち分かります。「ちゃんと回ってるかな？」とか考えてしまっただけ。実際に何度か顔を出しに行きました。でも「何の用？」みたいな反応で（笑）。消防の現場でも 1 年間取る男性も出てきますが、仕事はそれなりに回るんだなと感じています。



北原 社内連絡ツールもありますよね。自分は 2 日に 1 回くらいチェックして、「よし大丈夫そうだな」と確認していました。

宇都宮 僕は毎日見てました。

薄井 僕は会社から一切仕事と関わるなって言われたんですよ。勝手に仕事を始めちゃう人も出てくるみたいで。だから「気にするな」と。でもそのおかげでかえって気になるという。

宇都宮 笹島さんみたいに 8 か月も育休を取ると、「もう仕事に戻りたくない」と思いませんか？

笹島 戻りたくない気持ちは正直ありましたね。みなさんほど仕事を気にすることもなかったし。育休中は髪の毛伸ばして、ひげも伸ばして、「これで仕事には行けません」という風貌で過ごしてました（笑）。

育休を取って気づいたこと、成長できたこと

—育休を通して気持ちが変わったことってありますか？仕事への思いでも、家族への思いでも。

北原 効率を考えるようになりました。ぐだぐだ長くやるより、できるだけ早く終わらせようという気持ちが強くなりました。

宇都宮 子育てって1対1なので、そんなに大変じゃないと思ってたんです。でも実際にやってみたら大人2人でも大変。子育ての大変さへの共感は生まれましたね。



宮村 育休を取らずに仕事だけをしてたら、育児なんてたいしたことないと思ってた気がします。家事育児の大変さは自分でやってみてよく分かりました。今、我が家は、私が残業続きのため、子育ては妻のワンオペ状態になっています。妻からしたら「18時には夫

が帰ってきて、一緒に食事をして、子どものお風呂を入れてくれたらどんなに楽だろう」と思っているはず。でも全然できていない。育休を取ったおかげで育児の大変さが分かったのに、仕事に復帰したら妻のワンオペになってしまっているこの現状がもどかしいです。3人のお子さんがある小泊さんはどうされてるんですか？

小泊 今小学生の子が生まれたときは、僕は精神的に未熟で「こっちは仕事があるから、子どものことはよろしく」という態度でした。妻も若くて体力があったからなんとかあった。でも3番目はさすがに妻だけに頼れないと思いました。実は僕は元々そんなに子ども好きではありません。経験を重ねるうちに子どもを大切にしないでという考えに変わってきたんです。妻からは「昔と全然違う」と驚かれます。今は子どもが泣けば率先して抱っこするし、泣き止まなければ外を散歩する。子どもの数が増えるとももちろん大変ですが、それに応じた心境になっていくんだと思います。

北原 僕も1人目のときは育休を取らなかったのが妻は大変だったと思います。でも1人育ててみて、ある程度先が見通せるようになったので、事前に役割分担と1日のスケジュールを決めておきました。役割分担は途中で変わったりするけれどそこは臨機応変で。小泊さんみたいに成長はできてないけど(笑)。

小泊 僕は20歳で親になったのですごく未熟だったんですよ。結婚前は1人暮らしで好き放題。消防って外部の人と関わることがないので、こうやって異業種間で交流する機会もありませんでした。みなさんは営業や外部とのやりとりですでに成長されているんですよ。自分は子どもを持って取り巻く環境が変化したことで成長できたんです。

笹島 自分もまったく分からない中で双子育児がスタートしたので、最初はすごく大変でした。でも、料理、掃除、お風呂入れ、すべてを妻と一緒にするつもりで育児してきました。子育てのしんどさを夫婦一緒に経験できたのがよかったですね。自分の成長というより何が大変なのか分かったのがよかったです。

宮村 それがまさに成長ですよ！

夫婦関係は試行錯誤

—北原さんにインタビューしたとき「妻側の意見が必要では」と話していましたよね。「男が集まって『俺ら頑張ったよな』と言っても違うだろう」と。

一同 それはおっしゃる通りです！（笑）

北原 妻からは「助かった部分もあるけど、もっとこうしてほしいかった」と言われましたから。

宮村 子どもを産んだ女性にしたら当たり前のことばかりだし、それを男が「やってやったぜ！」と言えば「は？」となるでしょうね、そりゃ。

小泊 妻に言われたのは「女性だからといってやるのが当たり前だと思わない方がいい」と。

宮村 育休中に奥さんの性格の変化ってありませんでした？

小泊 ありました。うちの子は夜泣きが多くて1時間ごとに起きていたので、余裕がなくなっていましたね。まとまって眠れると穏やかなんですけどね。

宮村 夜眠れないの一番つらいですよ。イライラするし。自分は実家暮らしのパラサイトシングルが長かったんです。遅くまで仕事して、家に帰ったらメシ・フロ・ネルの生活。土日は疲れてずっと寝てる。生活は全部親頼み。そんな私と結婚してくれたのが奥さんで、本当に私のことを考えてくれて、彼女も働いているのに「仕事大変だね」と労わってくれる。自分は結婚後に妻に頼る部分がたくさんありました。家事の手順や休日に出かける場所など。でも子育ては妻自身も分からないことが多くて、そこでお互いピリピリしてしまって。関係性が難しかったです。

北原 うちが1人目のときに完全母乳だったので、夜間授乳はすべて妻に任せる形になってしまいました。それがしんどそうだったので2人目は最初から混合にして妻が手を離せる状況を作りました。上の子は妻に任せて、自分が夜間の授乳を担当。日中に仮眠を取るやり方で乗り切りましたね。

笹島 夫婦間で些細なことでピリピリする時期はありましたね。妻は正論を言われたいわけじゃないのに、僕が正論を言って喧嘩になってしまったり。妻はただ会話をしたいだけで、答えを求めているわけじゃないのに。そこに気づいてからは夫婦関係も改善しました。解決方法を問われているわけじゃないことって多いんですよ。

宮村 でもそこが難しい。つらいなら何かしなければと思ってしまいます。少し前に、家事の負担を減らせたらと思って自分の実家を頼ろうとしたんです。でも「かえって気を遣う」と却下されまして。「全然分かってない」と怒られました。先日も朝、出勤前に「子どもと離れられる時間があっていいね」と言われたので「じゃあどうしてほしいの」と。ちょっと衝突しちゃいました。

笹島 だから、解決方法うんぬんじゃないんですよ！（笑）

労働環境をもっと何とかしたい

宮村 自分に余裕がないと難しいですよ。仕事が立て込んでいて忙しい時期は余裕が持てない。でも何とか夫婦で乗り越えたいと思っているので、それに答えられる制度であってほしいです。



宇都宮 僕は今出向で県庁にいますが、県庁職員の方たちの働き方もすごいですよ。銀行の5倍くらい大変そう。労働基準法では複数月で平均80時間以内となっておりますけど。効率よくするために作ったはずの法律が、業務を縛ることになっていたりする。

北原 事業って増えていく一方で減らないですもん。従来の業務をこなしながら、増えていく業務に対応している。

小泊 どの組織もそうなんです。コロナをうまく転換期にできればよかったのに。

宇都宮 多くの組織において労働環境に課題が山積してることは間違いないです。

分かりにくいぞ、育休制度

北原 育休制度そのものも分かりにくいんですよ。取り方の例で出されているものはピンとこなかったりするし、もう少し分かりやすくできないのかな。

—みなさん、育休の制度はすぐに分かりました？



一同 分かりませんでした！

宮村 まずパパ育休と普通の育休を分ける必要ないですよ。1つにまとめて好きなときに取らせる形にすればいいのに。

宇都宮 もともとの本則があって、附則、附則で付け足しているから、どんどん分かりにくくなってますよ。マイナンバーで属性なども把握してるんだから「あなたはこんな風にとれますよ」「ここで取る選択肢もありますよ」ってAIが提示してくれたいのに。

北原 取る僕らもそうだし、企業側もそれを理解して説明しなくちゃいけないから大変です。総務の人でも面倒じゃないかな。書類が増えて、手続きが増えて、かかる時間が増えて。

小泊 取らせたいのか、取らせたくないのか分からない（笑）。

宇都宮 今の制度だと14日取るのがおそらく金銭面では一番効率いい制度なんですよ。税金等が免除になる最低期間で、賞与にも影響がほとんどないから。その結果、長めの休暇のようになるだけで育休の本来の意味がなくなってしまう。長く取ることのインセンティブがないと14日でもいいやっちゃう。

とにかくコミュニケーションは大事

—さきほど夫婦間でピリピリしがちという声がありましたが、みなさん心がけていることはありますか？

薄井 昼休みなどにLINEで「これからご飯だよ」とか「何時に帰るよ」とか、妻と常にコミュニケーションを取るようになっています。そして職場では家の話をするようにしています。「うちの子、今こんな感じなんですよ」みたいに。夫婦間のコミュニケーションと職場でのコミュニケーション、それぞれ大事にしておくと、繁忙期には妻に「今日遅くなる」と伝えても分かってもらえるし、逆に職場で「今日はどうしても帰ります」と言ったときに理解が得られやすい。夫婦間で面と向かって会話をすると、ピリピリしてしまうことがあるけれど、LINEだと穏やかにやりとりできるので、改善ツールとして使ってます。

北原 僕の場合は口頭のコミュニケーションを心がけています。テキストのやりとりだと冷たく感じさせちゃうみたいです。



薄井 個人によって、文章が得意だったり話すのが得意だったり、違いますもんね。僕は言い方がキツイと言われるのもっぱらテキストです。あと、自分は言葉の反射神経が良くないので、妻に何か言われてもパッと返せない(笑)。

小泊 僕は夫婦間でコミュニケーションを取るのが苦手な時期があって、そのころは家事にぶつけてました。一気に掃除して、一気に料理をして、洗濯して、お風呂に入って「は〜」とひとりくつろいで。妻からは「何その態度?」と言われてましたが。うまく言葉にできないときや喧嘩腰になってしまいそうなときは、とにかく家事でした。

薄井 モヤモヤを家事にぶつけるの、分かります。僕も普段拭かないところを突然拭いたりしてました。最近は自分ちょっとイライラしてるなと思ったときには正直に「今は精神的に余裕がないから機嫌悪く見えるかもしれないけど、気にしないで」と事前に伝えてます。余計な喧嘩をしないで済むよう口に出して伝えるのは大事だと思います。

北原 エスパーじゃないんだからお互いの気持ちなんて分からないですもんね。伝えなきゃ分からないし、過去の喧嘩からお互いの妥協ラインを探って、「これを言ったらまずい」とか「一線を越えちゃいけない」というのを学んでいくのみですね。

これから育休を取得する男性たちへ

—最後に今後育休を取得する男性たちへ一言お願いします。

北原 できるかぎり長く取った方がいいです。ある程度見通しを立てて役割分担を考えると楽だと思います。その上で臨機応変に頑張ってください。

宮村 男性も育児をするんだという空気の醸成をつないでいくことが大事だと思います。育休制度は続けることで改善されていくはずなので、後に続く人が出てきてほしい。みんなが取ってほしいです。

薄井 育休中は妻と一緒に何でもした方がいいです。授乳以外は全部男もできますから。我が家では授乳は妻が担当している分、おむつ替えは全部僕がやっています。家事も全部2人で。育休から仕事復帰した時に、妻と子どもは今頃こんな時間を過ごしているんだろうなという想像もついて、育児の大変さも共有しやすくなります。2人でやるのがとにかく大事。頑張ってください。

小泊 とにかく経験しておいた方がいいです。人として成長できるし、子どもの日々の成長を間近で見られます。男性育休が当たり前になるといいなと思います。

笹島 育休を長く取った者として、できるだけ長く取ってほしいです。そしてできることはすべてやってほしい。もちろん得意なこと苦手なことはあると思いますが、夫婦で話し合っただめればいいと思います。仕事の心配はあるかもしれませんが、離れてしまえばそんなもんなので気にしないで大丈夫。

宇都宮 今日ここでみなさんの話を聞いて1か月の育休期間が恥ずかしく思えてきました。今後取得を考えている人には1か月以上は取るように話をしていきたいです。



貴重なお話、ありがとうございました!